

相模湾地震災害状況放送劇シナリオ 8

避難場所 鵜沼中学校体育館 震災四日目 昼

時間 九時〇〇分

気温 八度 曇のち晴

課題 避難所内で障がいのある人や、高齢者など、特別な配慮を必要とする人の抱えた家族への一時支援対応について。

状況設定 避難者の家族の中に高齢で介護が必要な人がいる。家族は家のかたづけをしたいと言っているが、ヘルパーや介護施設はどちらも被災していて、今すぐの受け入れは困難。

【ストーリー】

登場人物

藤沢市子（ふじさわ いちこ） 高校生・愛称チーちゃん

中島 町内会長で避難所のリーダー

石川（女） 町内会役員で衛生救護班

川名 町内会役員で総務情報班

佐藤 藤沢市職員（避難所担当）

善行（女） 藤沢市の外郭団体・ボランティアセンターの担当者

鈴木（女） 主婦・介護者救護支援の依頼者

【市子のモノローグ】

避難所生活四日目。避難者の疲労は目に見えて増している。特にお年寄りは寝たきり状態になったり、家族の人が家の片付けにいたりして、一人残されてしまうと急に泣き出したりして、情緒不安定になってきている。介護が必要な人がいる家族や障がい者のいる家族、ケガをして動きの取れない人たちは、日がたつにつれて、苛立ちと、諦めとが、色濃くなってきたいくる。

事務局に介護者のいる家族が相談に来る

支援依頼者鈴木 すみません、お願いがあるんですが聞いてもらえませんか。

私の家族の中に、介護を必要としている高齢者が居るんですが、一時も早く家につれて帰って落ち着かせたいので、家のかたづけや整頓をしに行きたいのです。その間だけでも、ボランティアの方になんとか面倒を見てもらえないかと思っていますが。

センター担当善行 大変ですね、お疲れでしょう。ボランティアは毎日詰めていますから、介護の内容によってお手伝いします。時間を決めて下さい。

行政職員佐藤 こういうニーズは非常に多いので、ボランティアセンターのほうで幅広く活動しています。お名前を教えてください。

支援依頼者鈴木 鈴木です、鈴木あけみ。介護して欲しいのは母なんです。

救護班石川 あつ、鈴木さん。この方の介護者は、救護班で把握しています。

お名前は「ナカ」さんでしたよね。

支援依頼者鈴木 はい、そうです。九十歳で避難するときも大変だったんです。ただ、高齢ですが寝たきりというわけではないので何とかお願いします。

救護班石川 そういえば、一緒に避難してきたおばちゃんはリストにのっていないわ、隣近所の一人暮らしの年寄りをもう一度把握する必要がありますわね。

災害復旧班川名 確か介護支援センターが出来るんじゃないか。もう少し待つて、そこに預けてから家の後かたづけをしたらいんじゃないのかな。

センター担当善行 ここは人手も足りないし。十分な介護は出来ないかも知れない。でも、この方は家の様子を見に行く間だけなんですよね。

支援依頼者鈴木 はい、そうです。

災害復旧班川名 介護センターが立ち上がるまで待てないんですか。

支援依頼者鈴木 ええ、家が大丈夫なようなら、そこで落ち着けますし、駄目なら介護センターにはいれるまで待ちます。

センター担当善行 避難所のなかで、介護や看護の経験のある方に手伝っていただけませんか。介護や障がいを持つ人同士をグループにして、そこに経験者が一人着いて指示をする。そして私たちボランティアが介護の補佐をするというのはどうですか。

行政職員佐藤 避難生活の時間が経過して行くと、いろいろな問題が出てきますね。避難者同士のなかでも何らかの組織作りが必要ですよ。中島会長さん、介護や精神的ケアに対する運営委員会を組織して下さい。

救護班石川 お互いに協力しましょう。助け合いが出来るよう、会長にとりまとめをお願いします。

災害復旧班川名 ボランティアが不足していると言うことなので、時間割を決めてもらえれば我々避難所の者で高齢者の世話をしたい。経験者が足りなければ、マンションや自宅に帰った人も含め、リストアップする必要があるよ。

町内会長中島 避難者のなかに高齢者や要介護者がいる家族のニーズを良く聞いて、各町内会で、介護する人・警備する人・家の片づけに帰る人などに役割分担して、出来る範囲内で協力出来るよう調整してから行動しよう。

救護班石川 そうですね、早速手配します。

(間)

町内会長中島 介護される方も、身近な人に介護された方が安心だろう。

支援依頼者鈴木 ええ、顔見知りの方なら本人も安心します。

町内会長中島 住民だけでは出来ないこともあるので、事務的なことや体力仕事はボランティアさんにお任せする。ともかく住民だけでやることとボランティアに頼むことをキチンと分けたらいい。

行政職員佐藤 技術面のケアはボランティアさんに頼り、心のケアは地域の人達が組織化して助け合う。これならお年よりも障がいのある方も安心できる、素晴らしい組織になると思いますよ。

町内会長中島 佐藤さんに誉めてもらったって、一文にもならない。いずれにしても応急処置でしかないんだから。

行政職員佐藤 今は、それが一番大事なんですよ。

町内会長中島　この避難所に入っている特別な配慮を必要としている人達の、待遇改善の緊急性を勘案した7名のリストは作成済みなので、地震の被害がない、近隣他県の福祉施設への早期入所等の手配を行政当局にやってもらいたい。それから、ヘルパーさんの早期派遣もお願いしたいですな。

行政職員佐藤　中島会長の報告にある7名については、それぞれに適応した施設に送りますので安心して下さい。(大きな声で)避難所の皆さん、お互いの助け合いだけでは対応不可能なことがあるば、ボランティアセンターで対応出来るよう依頼します。他にも避難所のなかで困りのことがあったら申し出てください。総括責任者と相談して、対策本部に連絡を取り手配します。

それぞれ行動を開始する

【市子のモノローグ】

避難所生活も長くなるといろいろな問題がでてくる、その一つ一つが切実なものだから先延ばしに出来ない。それぞれに不便な事や不満はあるんだろうけど、我慢をしながら乗り越えている。何かうまく言えないけど、私にとってこの体験はものすごい社会勉強になったな。

私たちの町にもやつと水道と電気が一部普及して、復興に弾みがついたのが嬉しい。比較的家の被害が少なかった家族は帰り始めた。また親せきのうちに一時的に避難する家族もいるみたい。私も早く家に帰りたいな。

ストーリー 8　終わり

地域発防災ラジオドラマ
現状とドラマ（フィクション）との相違点

● 二〇〇九年現在、藤沢市には市内の公立学校等を中心に八十一か所の施設が

避難所として指定されています。一定の規模以上の災害が発生すると各避難所にはあらかじめ担当が決められた市職員（複数名）が駆けつけ、避難所開設の準備をはじめます。このドラマでは停電して暗い中、あえて担当者が駆けつけられない（何らかの事情が発生した）と想定して、避難所担当職員がいない中で住民だけでどうするかを協議するシーンを作りました。

市内の公立学校については、おおむね耐震性が確保されている状況にあります。鶴沼中学校も耐震補強が完了してはいますが、いくら耐震補強があっても、施設に入る前には安全性を確認する何らかの行動があり、かつそこには地域の協働関係が象徴されると考えて、あえて議論されるシーンを作りました。なお、藤沢市の避難施設マニュアルには簡便な安全性チェックシートも用意されています。実際のシナリオワークショップでは、建物に少しでも不安があるときは、校庭で待機するほうがよいという意見が出たグループもありました。

ドラマではわずかなシーンですが、ペットと離れられないと主張する住民と、避難所の関係者のやり取りが描かれています。ほとんどの避難所運営マニュアルではペットの持ち込みは原則禁止となっています。アレルギーがある人や動物が苦手な人がいる現状にかんがみて、避難所内にペットを自由に持ち込める状況にするのは難しいと思いますが、地域で何らかの工夫が出来ないか、事前に検討しておくことは可能だと思います。柏崎市ではペットと離れたくないという住民のために、避難所となった学校の駐車場に停めた車の中に入れたという事例もあるようです。藤沢市ではペットを専門に扱う事業者との協定を結んでいるところもあります。

ドラマでは避難所運営組織の各役割が決まっているので、組織は順調に動いている形に描かれています。実際にはこの舞台となった鶴沼中学校地区の避難所運営体制の組織化は、まだ緒についたばかりでドラマ制作時点では個人々に役割があらかじめ決められているわけではありませんでした。鶴沼中学校地区防災連絡協議会では平成二十二年三月に避難所設営訓練を実施し、実際の場面になったら現場でどのような課題が生じるかを、実際に体を動かして検証・確認することが決定しています。

災害時の公的支援を効率的に行うためにも、避難所の実情をその都度、市の対策本部に送り、状況認識を共有化しておくことは重要です。誰がどこにいるかがわかれば、被災地外からの連絡や安否確認の際には大変都合がよいといえます。しかし最近の個人情報がらみのトラブルにかんがみて、住民の中には本当のことを書きたがらない人が出てくるかもしれないと考えてこの課題を設定しました。町内会・自治会で名簿が作成されていない（作成が難しい）地域が増えているようです。藤沢市の避難施設運営マニュアルには書

式が定められていますが、そこに項目があるからすべて埋めると考えずに、それぞれの項目がなぜ必要かを住民自身で考え、判断することが重要であると考えられます。

● 鶴沼中学校地区ではいわゆる戸建て住宅からなる町内会・自治会だけではなく、一部のマンションの管理組合からなる自治組織が参加した形で防災連絡協議会を構成しています。防災連絡協議会に加入している自治会、管理組合の関係者間の合意形成には問題がないと思われませんが、地域のすべての共同住宅の居住者が参加しているわけではないとありません。したがってここで議論されたようにマンションによってはほとんど交流がないところも存在しています。

● 藤沢市では地域内住民を主体として、災害時のボランティア活動を支援するための組織藤沢災害救援ボランティアネットワーク(FSV)が活動しています。ここで取り上げたような課題の解決のためにも地元で活動するボランティアコーディネーターとしての役割が期待されます。